

奄美市笠利地区について

奄美大島北東部に位置する笠利町は、太平洋と東シナ海に囲まれ、中央部には200m以下の山が南北につらなっています。

東側はサンゴ礁が発達した海岸線に沿って小高い砂丘の海岸段丘が伸び、その背後には平地が広がり、さとうきびや畜産、亜熱帯果樹等を中心とした農業が営まれ、西側は環境省が「日本の重要湿地500」に選定した笠利湾が広がっています。

旧石器時代をはじめとする考古学的に貴重な遺跡が数多く発見され、琉球王国時代から島統治の中心地でした。

明治時代に笠利村となり、1961年に村から町へと変わり、2006年の市町村合併によって奄美市笠利町となりました。

奄美の空の玄関口・奄美空港があり、あやまる岬、蒲生崎観光公園、土盛海岸、打田原海岸、奄美パークなどの観光名所も数多く、ダイビングやマリンスポーツも盛んに行われています。

集落には県や市の無形民俗文化財にも指定されている伝統芸能が継承されていて、暮らしの中に独自の文化が息づいています。

奄美大島の位置

鹿児島から南へ約380km、九州(本州)と沖縄のほぼ中央の北緯28度に位置します。

奄美大島の地勢

面積は712.39km²。

東京23区の合計621.98km²よりも大きく、沖縄本島、北方領土を除く日本の離島の中では佐渡島(855.26km²)について2番目に大きな島です。

奄美大島の気候

海洋性亜熱帯気候で、黒潮の通る温暖な海に囲まれているため年間の平均気温が10℃を下回ることはありません。



*このガイドブックは、笠利地区の各集落に設置してある観光案内板「集落ものがたり」と連動しています。



笠利地区全体地図	2	佐仁1区・2区	11	土盛	20	喜瀬1区	29
観光地紹介	3	用	12	宇宿	21	喜瀬2区	30
赤木名地図	4	辺留	13	城間	22	喜瀬3区	31
里	5	笠利地図	14	万屋	23	用安	32
中金久	6	笠利1区	15	和野	24	打田原	33
外金久	7	笠利2区	16	節田	25	前肥田	34
川上	8	笠利3区	17	平	26	手花部	35
屋仁	9	須野	18	土浜	27		
佐仁地図	10	崎原	19	喜瀬地図	28		

* 笠利地区観光地紹介 *



笠利埼灯台と音水（用）

奄美大島の最北端に位置する笠利埼灯台は地元で「用岬灯台」として親しまれている。笠利埼先端の標高約67mの岩上にあり海域を北上・南下する船舶の重要な灯りとして昭和37（1962）年3月31日から点灯している。また、灯台に登る岩場を流れる石川（イシゴウ）・音水はカミサマの禊の場所でもある。



夢をかなえる「カメ」さん(用)

2002年12月に笠利町商工会により建立されたモニュメント。訪れた人に幸せがもたらされることを願い、頭に触れると知恵が授かる・カメに子供を乗せると元気に育つ・おなかにふれると子供が授かるなど、「カメ」さんの各部位に願がかけられている。



大笠利聖ミカエルカトリック教会（アンゼラスの鐘）（笠利3区）

明治36（1903）年に、中村長八神父によってキリスト教の布教が始まり、大正4（1915）年に大笠利教会聖堂が完成した。昭和26（1951）年に現在地へ移動し、昭和47（1972）年に大笠利聖ミカエル教会の聖堂が完成。現在の聖堂は令和6（2024）年に新たに建て替えられた。戦時中に不明になった「アンゼラスの鐘」は、昭和59（1984）年12月10日に里帰りした。



奄美十景のあやまる岬（崎原）

岬の形が、「綾でできた毬のように真ん丸」であることから名前がついたという。あやまる岬には神様が宿っていると言われており、ニライ信仰と天孫降臨の融合した神山的な信仰が残る岬である。あやまるの山頂には神屋敷があったといわれ、展望台には拝所、岬の丘一帯はアヤマルグスクになっており、グスク跡が信仰の場になってきた。岬から眺める景色は奄美十景にもなっている。



歴史民俗資料館（崎原）

奄美は古代から「道の島」として知られ、縄文・弥生時代から南島と九州を結ぶ文化交流が行われていた。館内では歴史や文化が一目でわかるように「奄美の歴史と文化～黒潮の足跡～」をテーマに資料などを展示している。



土盛海岸（子抱き岩）（土盛）

子抱き岩（クワダキ岩）のある土盛海岸は美しい海岸だが、潮流の流れが複雑で危険な場所でもある。子抱き岩は石灰岩の上に砂岩状で楕円形の岩が乗っている。その格好が子供を背負っている様子に似ていることからその名がついた。また、土盛沖合で白波が立つ場所はザンノス（ジュゴンの巣）と呼ばれている。



宇宿貝塚（国指定文化財）（宇宿）

宇宿貝塚は昭和8年に京都大学の三宅宗悦博士により発見された。昭和30年には九学会連合奄美調査委員会により発掘調査が行われた。昭和53年には貝塚の範囲確認調査が行われ、縄文時代並行期の石組住居跡や弥生時代並行期の母子埋葬人骨などが出土し、昭和61（1986）年10月7日に国史跡に指定された。



大瀬海岸（宇宿）

奄美大島は、季節の渡り鳥が北上、南下する際の重要な中継基地になっている。中でも宇宿前川河口に群生するヨシ類の植物と干潟、発達したリーフが広がる大瀬海岸は、ゴカイや小魚が豊富で、野鳥にとっても貴重な楽園。約120種類の留鳥・渡鳥が確認されている。



奄美パーク（節田）

2001年9月にオープン。奄美群島の自然・歴史・文化を紹介しつつ、交流の場としての「奄美の郷」と、奄美を描いた孤高の画家の「田中一村記念美術館」が併設されている。



ひと・もの交流プラザ（節田）

2013年4月にオープン。産業振興と地域住民と来島者の交流促進による地域の活性化を目的に建設され、地元農産物や特産品の販売ならびに観光情報の提供や交流プラザを活用したイベントを開催している。



用安海岸（用安）

用安海岸は奄美大島を代表する海岸の1つである。海岸沿いにはレジャー施設もあるので観光客にも人気のスポットになっている。



崎原海岸・打田原海岸・鯨浜海岸（三浜）（打田原）

3地区それぞれ民家のすぐ前に砂浜が広がる。美しい景観と共に波や風の合間に鳥や虫など四季折々の音が響く穏やかな静けさが魅力である。打田原・崎原地区ではアダンやオオハマボウが護岸林を形成し集落を守り、その根元ではオカヤドカリをはじめとした生き物たちを育てている。



赤木名海岸（外金久）

赤木名の外金久集落に位置し赤木名立神を望む赤木名海岸。遠浅の海岸で綺麗な砂浜が伸びる。海水浴やマリンスポーツに人気で、夏場はこの水平線に夕日が沈んでいく。



蒲生神社一帯（屋仁）

蒲生神社には、大鏡（文化3年/1806年）・石塔（享保10年/1725年）・鐘（宝暦元年/1752年）や、弁財天像（山田隆介作）がある。神社にはミヤテラサマが氏神さまと一緒に祀られていることから、平家伝説にまつわる蒲生左衛門とあわせて三柱が祀られているという。また、下の海岸には蒲生左衛門が海中に積んだと伝えられている石垣もあるという。